

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790700033		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホームすずらん紡 横系の棟		
所在地	福島県須賀川市小作田字荒町台17		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者中心」という理念を掲げて開所から行ってきました。利用者が自分の思いや希望を表出する事ができるような信頼関係を築き、思いをくみ取り、希望の実現に向けてチーム全員で支援に努めています。利用者の望む生活の実現に向けて職員の知識や技術、専門職としての資質の向上に努めています。しかしコロナ禍の状況で昨年までの様な支援が行えないこともありました。外出などができない状況になり、グループホーム内でどれだけ希望を叶えることができるか、どのように過ごしてもらおうか考えました。職員の資質の向上の為の研修参加についても難しい状況となる中で、朝のミーティングでの意見交換、気づきを得られるような投げかけを行いました。家族さんの面会も少ない中で、利用者と家族の関係が途切れてしまう事のないように年賀状を送りあっていただくように準備、投函しました。紡退去後家族の方が連絡を下さいます。今後も繋がりが途切れることがないように努めていきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当時から「入居者中心」という理念を事業所として掲げています。生活の主体は利用者であることを念頭にいき、理念の実現に向けて取り組んでいます。新入社員が入社時理念を説明しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の方に顔を覚えていただき声をかけてもらえるようになりました。野菜をいただいたりしました。今年度はコロナ渦の為ありませんでしたが、地域の盆踊りに参加させてもらったり、秋祭りの山車が回って下さり子供たちとの交流の時間を作っていただきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として認知症カフェを開催しています。しかし地域の方たちへの周知はまだまだ不十分な状況です。地域の方に向けての研修会の開催などもできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用者の実際の生活の様子や行事の様子、誕生会の様子などを写真を使い参加している方々に見ていただいています。コロナに対しての感染予防策などについて報告しました。ご意見やアドバイスをいただいています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として連絡を密には図れてはませんが、法人として市との情報交換や相談、報告を行っています。徘徊SOSネットワークへの登録、協力などできる限り協力し、関わっていきたく思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギをかけない、外へ出てしまう入居者さんには、そのまま一緒に散歩するなど、本人の思いを大切にしながら関わりを持っている。身体拘束についての学習会に参加し、不適切ケアにならないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての学習会に参加、倫理委員会が中心になって、それぞれの職員が学ぶ機会を設けている。またCW会議などの議題にあげ虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する機会があるが、必要な時に関係者との話し合いや活用できるかは不安な部分が多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定などの際には、利用者や家族と十分な話し合いを行い、契約内容について不安や疑問が無いかどうか納得して頂けるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様より、意見要望、クレーム等ある場合には、気兼ねなく相談できる機会を設けている。また、運営推進会議などで議題に上げ話し合う機会を作っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、日常の勤務の中などで意見や提案を聞き、すぐに反映できるものについては反映させるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、労働環境を見直し、職員にとって少しでも働きやすく、長く続けたい職場となるよう環境作りに努めています。職員個々の能力を見極め、力を発揮できる場面を作ったり、自信ややる気につながる環境を整えられるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の職員が集まった研修(レベルアップ研修)があり、各自年1回学びの機会を設けています。その他資格取得に対するサポート。朝のミーティング時考えを構築するような働きかけをし、職員1人1人が少しでも成長できる場面を作るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員が集まった研修(レベルアップ研修)での他事業所職員との交流、意見交換ができる場を設けています。今年度は外部研修への参加の機会がなかったですが、通年は外部研修への参加を促し新たな気づき、情報交換、繋がりを持つ機会を作っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、本人が困っていること、不安なことなどお聞きし、グループホームでの生活が少しでも過ごしやすい環境になるように、本人の言葉や表情を読み取り、生活に生かせるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、ご家族様の困りごとや不安、要望などをお聞きし、日々の生活が少しでも過ごしやすくなる工夫を考え、職員で共有している。また信頼関係を構築するため、丁寧な対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、必要としているものは何かを見極め、グループホームだけではなく、ほかのサービス利用も考えながら、本人にあった支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される側に置かず、一緒に生活する中で、出来ないところを支援する、また暮らしの中で本人から教わる部分を大切にしながら関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで培ってきた家族の関係を大切にしながら、本人と一緒に支える関係作りをしている。一か月日記などで、支援の状況をお伝えしたり、必要に応じての相談など、こまめに連絡を取り合い関係を深めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの美容室や床屋さん、大好きな和菓子があるお菓子屋さん、行きつけの八百屋さんなど、人や場所、懐かしい味などが途切れないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関係が深められるよう会話の間に入ったり、また調理や盛り付け、お掃除など一緒に出来る環境づくりをするなど、お互いがお互いを支えられるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入居者の皆さんに会いに来てくださったり、また行事に参加してくださり、皆さんとの関係性を大切にされているご家族様がいらっしゃるの、途切れないように関係性をたいせつにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしの希望を大切に、歌番組をかけ気持ちを穏やかに保ったり、調理をすることで自分の時間が有意義になったり、縫物をすることで楽しい時間を過ごせるなど、それぞれの希望に沿った生活になるよう支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力いただき、1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握、誕生日にはその方を特集した新聞作りを行い、その方の生き方を皆さんと一緒に称賛しあった 今後の支援にも活かしていきたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態に合わせ、出来る力を最大限活用する為、出来ないところを補う支援を心がけている まずは本人にやってもらうを大切にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見やアイデアを反映させながら、本人がよりよく暮らすための課題をチームで話し合い、ケアプランを立てていますが、現状維持になってしまう入居者さんもいて、9名全員に向き合っていない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送り事項を記入することで、職員間の情報共有や、ケアプランの見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日、何度も外を散歩される入居者さんがいるが、ご近所の方が声かけて下さったり、買い物に行く地元の商店街があり、笑顔が増えた。地域資源をもっと生かせるよう取り組んでいきたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店街や理美容の利用はできているが、公民館や地域行事などは招待されての参加のみ、自主的に参加できるサークルや、ご近所とつながりが増やせるよう支援していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人と家族の希望を大切に、納得がいくかかりつけ医に往診診察を行って頂き、適切な医療を受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の気づきや情報を看護師に伝え相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院の際には付き添い、グループホームでの生活の様子を伝えることで、安心した治療が受けられたり、早期に退院出来るような関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化や終末期の在り方について入居される段階で説明し、事業所でできること、方針を共有しながら支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や事故発生の際のマニュアルを作成し、実践できるように取り組んでいるが、初期対応の訓練等も定期的に行っていないので、今後勉強する機会を作り、実践力を高めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力を得ながら、定期的に避難訓練を実施し、災害に備えている 訓練ごとに出た反省を活かせるよう取り組んでいきたい		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけをしているが、慣れもあり不適切な言葉も時々見られるので、お互いに注意するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるように働きかけているが、思いを伝えられない入居者は職員本位で決めてしまっていることがある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのそれぞれのペースを大切に、希望が叶えられるように支援しているが、職員がお願いする場面も少なくない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事のメニューを相談し、下ごしらえ、調理等一緒に行い、食事を味わうことで、食事が楽しいものになるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量が分かるように記録し、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのチェック表を作成し、毎食後の口腔ケアが行えているか確認し清潔を保っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食物繊維の多い食材を利用したり、個々に合わせ、ゼリーや飲み物等工夫し、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるようにし、ほぼ全員が入浴、清拭などで清潔を保てるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して気持ちよく休めるよう、個室が確保されており、日中帯も休息ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用については、全員が把握できていないが、誤薬に繋がらないよう、二重チェックをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を生かし、生活に楽しみができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望によって、美容室や、お墓参り馴染みの場所等に行けるよう、家族や地域の人と相談しながら外出の支援をしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によってお金を所持し、一人ひとりの力に合わせてお金が使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人に、本人自らが電話しお話をさせていただいている 手紙はかける人が少なくなってきたので、簡単なはがきのやり取りを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節の花や、飾りなど工夫し季節感を感じられるようにしている 音や光、色など刺激を少なくし、居心地よく生活できるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや、居室、ベンチ、和室など、気の合った仲間同士で過ごしたり、一人になれる場所もあり思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	それぞれの居室は、家族と相談し、家庭で使っていた馴染みのあるものを活かして、その人らしく過ごせる居場所となるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	はき掃除やモップ掛けなど自分のできるような場所にあたり、テレビや新聞が自由に見れたり、お茶を自分で入れられるなど、自立した生活が送れるよう工夫している		